

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

団体名： 特定非営利活動法人 イー・ビーイング

プログラム名： 「森の体験」「森まなび塾」による森林ESD

プログラムの目標	小学生とその保護者をはじめとする幅広い都市住民を対象に、森林がもたらしてくれている様々な恩恵を知り、保全の重要性を知って体験し、積極的に楽しむ機会を提供することから、森林資源の働き及び自然災害の防止の役割、自然の偉大さを知り自然環境を大切にすることの重要性を理解する。
プログラムの概要	森の体験。 大阪府内や奈良県吉野町の森林をフィールドに、①森について学ぶセミナー ②森林保全活動や自然観察会 ③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキングを組み合わせたプログラムを実施 2014年6月～2015年1月に5回のセミナー&活動体験と1回のシンポジウムを開催。 参加者延約230名 活動場所 紀泉わいわい村の里山、河内長野市滝畑ダムと岩湧の森、奈良県吉野町、大東市飯盛山や野外活動センター、河内長野市林業関連施設など、大阪市内 など 森まなび塾。 奈良県吉野町の森林をフィールドに、①森について学ぶセミナー ②森林保全活動や自然観察会 ③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキングを組み合わせたプログラムを実施 2014年9月、11月、2015年9月に3回のセミナー&活動体験 参加者延約70名 活動場所 奈良県吉野町

プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
各60分程度	①森について学ぶセミナー	
	「森の役わりを知らう～森林が守る生物多様性～」 「地球温暖化と異常気象」 「河内長野の水源地の森」 「吉野の森を知る・楽しむ・つながる」 「森の木が住宅になるまで」 「大阪市内の国産材活用」 「吉野の森の特徴と守ることの大切さについて」 「吉野の原木～製材～住宅を知らう」 「森のめぐみのご紹介～森林が育んだおいしいものや文化遺産について～」 「日本のもりと水と空気を守る～普段のお買い物を通して環境貢献～」 など	都市生活で自然と触れ合う機会が少ない人々に、きれいな水・空気の提供をはじめとする森林がもたらしてくれている様々な恩恵を伝え、都市生活の中での環境貢献にはどのような手段があるのかを具体的に伝える。 例えば、国産材を住宅・内装・家具などで使う。カーボン・オフセット商品・サービスを選ぶ。省エネ・節電などを実践する。森林に出かけて楽しむ。など
各2～3時間	②森林保全活動や自然観察	
	「夜の森、朝の森の自然観察」 「水源の森自然観察」 「川上村250年の森訪問」 「生駒花屏風ハイキングでの植樹」 「河内長野での間伐体験」 「2009年の広葉樹植林地での下草刈り」 「奥千本桜の植樹の準備活動」 など	森林保全の重要性を知って体験し、積極的に楽しむ機会を提供する。 間伐・草刈・植林などの直接的な活動だけでなく、自然や保全された森林の魅力を知り、体験し、多くの人に伝え、今後も機会を見つけて訪れて楽しむことも、s全環境を大切にすることである、と伝える。
各2～3時間	③森林を楽しむ森林セラピーやウォーキング	
	「水源の森ウォーキング」 「森林セラピー体験」 「森林ウォーキング」 「吉野桧シートを使ったキャンドルホルダー作り」 「間伐材のウッドシェイカーづくり」 「ネイチャーゲーム」 など	自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすることを再確認する。 自然体験や森林保全のボランティア活動、楽しいものづくり体験を通じて、森林の楽しさ、素晴らしさを伝える。

森林環境教育の視点	1 感性的経験	感性的な内容－森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など			
	2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容－植物や動物の生態など			
	3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容－森林の働き、保安林など			
	4 現状・課題	森林の現状に関する内容－森林の荒廃、人手不足など			
	5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容－森林整備、育成、維持、管理など			
	6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史－その土地での歴史、薪炭林、炭焼き			
項目番号	活動の分析（森林環境教育の視点） 上位3項目				
1 感性的	森林保全活動や自然観察、森林ウォーキングでは、木の幹や枝・葉などの感触や森の景色、土がふかふかしていること、谷間の風を感じたり、鳥の鳴き声に聴き入ったり、普段の生活では体験できない、五感で感じる体験ができる。				
2 自然的	昆虫やヘビ、カニなどの発見、葉・花や樹液の匂い、いろいろな動物の糞や荒らした跡、樹皮をかじる鹿被害などの観察から自然や命しくみや不思議さを学ぶ。				
3 多面的	都市生活での空気やおいしい水は森林がもたらしてくれること、材木、食物の多くなども森林が育ててくれていること、レクリエーションの場となり、精神的な安らぎや活力をもたらしてくれるのも森林であることなどを学ぶ。				
ESDの要素（生きる力）		能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
			2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながりを尊重する態度
			3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
			4 コミュニケーションを行う力		
項目番号	活動の分析（能力・態度の視点） 上位3項目と実施後の変化				
3 多面的	森林の多面的な機能をセミナーで理解し、体験活動を通じて体感・実感し、今後森林環境を守るために自分たちができることを考えるなど、自然との関係を考えるきっかけとなった。				
6 つながり	みんなつながっている。 都市生活と森林のつながり、一人一人の人間の営みと地球温暖化の関係、全ての環境問題がつながっていることを、セミナーや体験を通じて理解した。				
7 参加	地球規模の環境問題に対しても、一人一人の活動の積み重ねによって貢献することができること。大切にす気持ちや楽しい体験を通じて、森林保全を始めとする環境問題に積極的にに関わり、参加する気持ちを育んだ。				
実施後、参加者の変化	参加者からのメッセージの一部 ・自然がいろいろとつながって人間のくらしに役立っているとわかりました。（小学生） ・大きな木も小さな花もカニの出産も命をつなげているのが健気に感じました。人間は他の生き物に謙虚であるべきですね。 ・虫にいっぱいあえた。虫にさわれた。（幼児 保護者聞き書き） ・山が都市の水を守ってくれていると改めて実感しました。 ・人の手によってつくられた森が多くあること、そして守っていくことの意義、木を使い続けることが、CO2を貯蔵している点で役立つこと、文化的価値を森林から受けていることも知った。 ・セミナーを聴いてからのウォーキングは森林を見る目が違いました ・250年の森、杉を手のひらで触った感触はすばらしかった などのように、森林に触れることで都市生活では触れることが少ない自然へのおどろきや不思議さなどを感じ、保全の大切さへの実感や自然に対する認識がたかまった。				

学習指導要領との関連（上位3項目）		
教科	項目	学習内容
道徳	自他の生命の尊重、自然の偉大さを知り自然環境を大切にす る、美しいものに感動する心や 人間の力を超えたものに対する 畏敬の念をもつ心	森林の多面的な機能をはじめとする自然の偉大さを知り、自然環境 を大切にする。 保全の行き届いた森林、昆虫や植物といった自然の造形など美しい ものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をも つ。
総合 特別活動	横断的・総合的な学習、探求的 な学	森林保全活動や自然に触れる体験を通じて、森林の重要性や大切に 感じ愛おしむ気持ちを育む。
理科 6年生	生物の環境	生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きているこ と、人間は全ての生物の恩恵によって生きていることを理解する。
プログラムでの学校との連携（取組内容）		
プログラムでの地域との連携（取組内容）		
セミナーも体験活動についても、実施する地域の方（行政の担当者、森林組合など）にヒアリングを行った。ヒアリング内容は、森林や生物多様性におけるその地域の特色、保全や保護の状況、セミナーで紹介すべきポイント、体験活動に取り入れるべき内容など。 プログラムについて具体的な提案をいただいたので、活動全体がより充実した内容になった。 日頃から森林保全や自然保護に携わっている方ならではの、アドバイスや体験活動のおススメやポイントなど、貴重な情報を得られた。		
プログラムの今後のめざす方向・展開		
都市と森林、日々の生活と環境問題など、あらゆることはつながっています。 そのつながりを意識すると、「森林が私たちの命を支えてくれていること」「森林を守る活動は自分たちを守る活動であること」「直接森林を保全する活動でなくても、森林に出かけて楽しむことや、国産材製品を使うこと、カーボン・オフセット商品を購入することなどでも森林を守ることや環境保全に貢献できること」が理解でき、日常生活においても森林保全や持続可能性に思いを致すことができると考えています。 これからも都市住民だからこそ、「森林保全への行動をとる」「まちの中で自然と親しみ、環境貢献を考える」人々を増やしていきたいと考えています。		
現状での課題など		
より多くの都市住民、特に小学生とその保護者に、森の体験。森まなび塾。のプログラムを紹介し、参加者を増やしたいと考えるが、情報提供手段が限られている。		
質問事項、知りたい情報など		